

さいたま市立浦和博物館館報

あかんさす

VOL. 43-1
通号 第 108 号

ACANTHUS : BULLETIN OF SAITAMA MUNICIPAL URAWA MUSEUM

さいたま市内南部に伝わる中世の御仏



▲木造虚空蔵菩薩坐像(浦和区・東泉寺蔵)

平成26年10月25日から11月30日まで、特別展「中世の造像」を開催しました。さいたま市内には、県・市の文化財に指定された中世の仏像が23軀ありますが、今回の展示では、市内南部の指定を受けていない仏像8軀を中心に、図像板石塔婆、神像などを展示しました。以下にその一部を紹介します。

■ 目 次 ■

さいたま市内南部に伝わる中世の御仏	1～3
八丁石工の作品発見！	4
日誌抄	4



6世紀に朝鮮半島から伝えられた仏教は、市内にも影響を及ぼしました。遺跡からは、桜区の大久保地区に古代寺院があったことが確認されていますし、また、古代に開創した伝承を持つ寺院も見られ、平安時代の仏像も確認されています。それに続く、鎌倉時代や室町時代の仏像も確認されていますが、調査・研究が進んでいないこともあり、あまり注目されてはきませんでした。市内全体の調査が終わっていないため、全体を把握することは困難ですが、平安時代の仏像に続き荒川流域を中心に、中世の仏像も残っていることがわかってきています。

今回の特別展では、旧浦和市域で判明した8体の仏像を展示しましたが、内5体は荒川流域に存在するものです。一番古い像は、南区沼影にあった遍照院の「阿弥陀如来坐像」（埼玉県立歴史と民俗の博物館蔵）で、平安時代末期の作とみられます。遍照院は、明治時代初期に廃寺となりましたが、『新編武蔵風土記稿』によれば「新義真言宗、内谷村一乗院末、本尊不動ナリ」と記され、その本尊不動明王は、足立百不動のひとつに数えられていました。阿弥陀如来像は、廃寺と同時に同じ沼影の広田寺（天台宗）に預けられたようで、腕や膝前などが壊れていましたが、埼玉県立博物館に寄贈され、解体修理を受け、現在に至ります（『埼玉県立博物館便り』11号に修理内容掲載）。

玉眼であったことから、鎌倉時代以降の造立と考えられていましたが、平安時代後期に関西地方で本格的な造立を受けた像で、南北朝時代に大きな修理を受けたという見方が有力になっています。像高51.5cm。身部は前後で短ぎ、内割（像の内部をくりぬく）し、膝前に横木をあてた寄木造で、漆箔（漆を塗った上に金箔を押ししたもの）が施されています。

なお、沼影は、鎌倉時代には北条氏一族の所領、後に鶴岡八幡宮の社領となった「佐々目郷」（さいたま市南西部から戸田市に南北に連なる）と呼ばれた地域に属しています。阿弥陀如来像の由来は分かりませんが、広田寺にも鎌倉時代の聖観音立像（市指定有形文化財）が伝わっています。

次に桜区大久保地区に4体の中世仏が存在することが判明しました。この地域は、鴨川の自然堤防上に集落を形成し、弥生時代後期から平安時代の遺物が出土するところで、特に奈良・平安時代の布目瓦が出土しています。当時瓦を用いるこ

とができたのは寺院や役所であり、また、土製の螺髪も出土していることから、奈良・平安時代には寺院があったことが推測されています。出土した螺髪から推測される仏像の大きさは、「半丈六仏」（坐像で約1.2m）で塑像（土の像）や乾漆像（漆で固めて造った像）の可能性がありますが、寺院は消失したようで、現在の寺院につながるものではありませんが、早くから仏教文化が開いた地域であったようです。



▲木造薬師如来坐像

上の写真は、桜区大久保領家にあった光明院（明治時代初期に廃寺）の本尊であった木造薬師如来坐像で、「鎌倉の大仏」によく似た体軀をしています。像高51.2cm、寄木造、玉眼、漆箔の像で、頭部の肉髻は低く、背を丸めた猫背の姿勢、流動的に波打ったような衣紋の彫り方など宋風の特徴を持った鎌倉時代後期の作とみられます。

右下の写真は、桜区宿の観音寺に伝わる木造聖観音菩薩立像です。上記の仏像と同様、古代瓦が出土している地域にある寺院で、創建は定かではありませんが、名前が示すとおり、観音様を本尊とした寺であったと思われます。現在は銅造阿弥陀三尊像（市指定有形文化財）が本尊となっているため、この菩薩像は、境内にある足立新秩父観音霊場第25番札所「観音堂」の本尊となっています。像高55.6cm、一木造、玉眼、漆箔の像で、宝髻は後補と思われます。

なで肩で、幾分前かがみとなりますが、尊顔は鋭く、緊張感のある面持です。衣紋は重厚で、流麗ですが、形式化が進んでいます。慶派系の鎌倉



▲木造聖観音菩薩立像



仏師の作と思われるもので、鎌倉時代末から南北朝時代の作と考えられます。



▲木造聖観音菩薩坐像



▲木造地藏菩薩坐像

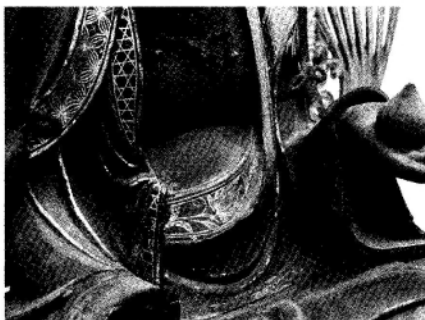
上の2点の写真は、桜区五関に伝わる仏像です。五関は、大久保領家と宿に接する場所にあります。左側の観音菩薩像は、旧妙音寺の本尊で像高32.3cm、寄木造、玉眼の像です。宝髻、彩色は後補されています。

右の地藏菩薩像は、像高34.0cm、寄木造、玉眼の像で、彩色は後補されていますが、鎌倉仏師系の作風とみられます。どちらもなで肩、猫背、流麗な衣紋など室町時代後期の典型的な像です。

一方、これら西部の荒川流域とは別に、緑区中尾にある吉祥寺を中心とした天台宗の寺院にも中世仏が確認されています。吉祥寺の末であった緑区清泰寺の木造十一面観音立像や浦和区本太観音堂の木造聖観音菩薩坐像は市の文化財に指定されています。そのほか、3軀の仏像も吉祥寺末の寺にありました。

表紙の木造虚空蔵菩薩坐像は、かつて吉祥寺の隠居寺であった浦和区瀬ヶ崎の東泉寺に納められています。元は木崎中学校の西側「田中山」と呼ばれる虚空蔵堂の本尊でした。像高23.7cm、一木造、彫眼の小さな像です。しかし、その細工は細かく、素地に截金（金箔を極細に線状に切り、一本ずつ直線や曲線に貼って文様を描き出す）や金泥彩を施しています。別材の宝冠も含めると、

截金の文様は8種類あります。袖の表裏で文様が異なるなど、この写真だけでも6種類見ることができま



▲木造虚空蔵菩薩坐像(部分)

台の反花にも截金が見られますし、反花の下にある敷茄子や光背には透彫りが施されています。室町時代初期頃と考えられる秀作です。

中世の虚空蔵菩薩は、もう一軀ありました。それは、緑区中尾の福生寺持ちの虚空蔵堂にあった木造虚空蔵菩薩坐像です。福生寺も明治時代初期に廃寺となっていますが、地元の御婦人方は、今でも虚空蔵様のお念仏を行うなど、信仰の対象となっている仏様です。像高46.1cm、寄木造、玉眼の像で、東泉寺の虚空蔵菩薩と比べると、頭、体とも厚みがあり、室町時代後期に、在地の仏師による造立と考えられる像です。



▲木造虚空蔵菩薩坐像



▲木造十一面観音菩薩坐像

また、この地区には、新秩父三十四所観音霊場第14番「中尾堂」の本尊であった木造十一面観音菩薩坐像も伝わります。新しい材料で塗装されているため詳細は分かりませんが、像高30.2cm、寄木造、元は漆箔の像であったと思われます。

これも、室町時代後期に、在地の仏師による造立と考えられる像です。

今回は、所蔵されている皆様のご協力のもと、市内南部の中世仏を展示しましたが、展示中にも中世仏と思われる仏像の情報が耳に届きました。未調査の仏像が市内にはまだ残っているようで、また、いつか御報告ができればと思います。

(T)

〈その他展示資料〉木造女神像（桜区東福寺）、十六日念仏供養板石塔婆、駒形神社御神体（緑区駒形公会堂）、氷川女體神社古社宝類の内、木造男神像・木造鳥魚形祭具（緑区氷川女體神社）、宿宮前遺跡出土螺髪・煉瓦状土製品、宿宮前寺院跡出土隅瓦・丸瓦（さいたま市教育委員会）来迎阿弥陀三尊板石塔婆拓影図、延慶三年銘図像板石塔婆拓影図（当館）



八丁石工の作品発見！

前号で、石工名の特集を行ったところですが、八丁石工の作例が新たに見つかりました。

見つかった場所は、見沼区片柳、見沼田んぼに面した台地の上にある三崎稻荷神社。雑木林の中にひっそりと立つ石鳥居にその名前がありました。文政13年（1830）2月に立てたもので、「武蔵八丁住」「石工 秋本兼右衛門兼昌」「脇 金治良直昌」と刻んでいます。



▲三崎稻荷大明神石鳥居

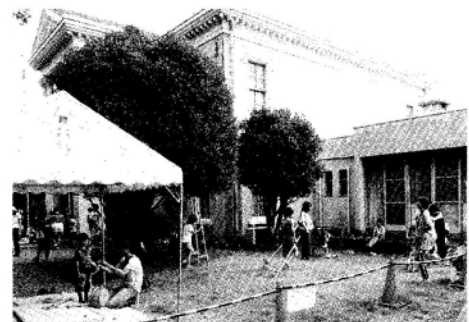
「八丁石工 兼右衛門」と刻んだものは多く見られますが、「兼右衛門兼昌」「金治良直昌」と刻んだ例はなく、初例となります。「兼右衛門」は「八丁石工」を名乗った人物で、2代にわたって使われた名前と考えられています。今回の発見により、初代兼右衛門が「兼昌」であったこと、2代目兼右衛門と考えられる金次郎（墓石による）が「直昌」であり、初代兼右衛門と一緒に仕事をしていたことが判明しました。

日誌抄

- 4 / 20(日) 定例探鳥会
- 5 / 18(日) 定例探鳥会
- 5 / 22(木) 三室小学校（6年生）地域学習
- 5 / 24(土)～6 / 29(日) 「新収藏品展」
- 6 / 11(水) 三室小学校（3年生）地域学習
- 6 / 14(土) 親子探鳥会
- 6 / 15(日) 定例探鳥会
- 6 / 19(木) 三室小学校（2年生）地域学習
- 7 / 19(土)～8 / 31(日) 夏季企画展「夏休み子ども博物館」
- 7 / 20(日) 定例探鳥会
- 7 / 22(火)～8 / 5(火) 博物館学芸員実習
- 7 / 25(金)～8 / 3(日) 昔のあそび体験
- 7 / 26(土) 手作りおもちゃ
- 7 / 27(日) クイズ大会
- 8 / 1(金)～8 / 31(日) 文化財さがし
- 8 / 2(土)・3(日) 見沼通船堀のしくみ実験
- 8 / 17(日) 定例探鳥会
- 8 / 23(土) かんたんおもちゃ（缶ぼっくり）作り
見沼通船堀のしくみ実験
- 8 / 24(日) 勾玉作り
- 9 / 21(日) 定例探鳥会



▲親子探鳥会



▲昔のあそび

さいたま市立浦和博物館報 **あかんさす** No108

編集・発行 さいたま市立浦和博物館

〒336-0911 さいたま市緑区三室2458番地

TEL・FAX 048-874-3960

発行日 平成27年3月18日

ホームページ <http://www.city.saitama.jp/>

E-mail urawa-museum@city.saitama.lg.jp

この館報は2,000部作成し、一部当たりの印刷経費は25円です。

